

時間割コード	G1D13401	開講年度	2026				
授業題目	ドイツ語初級（文法）Ⅱ					担当教員	浜 泰子
英文授業名	German: Elementary Level (Grammar) Ⅱ						
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限	対象学生	LⅠ／全
講義室	共通教育36講義室			授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンベンション	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	大学DP 学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力				⇔	・ヨーロッパにおける主要な言語の一つ「ドイツ語」の基礎文法を習得することにより、基本的なドイツ語の文を理解したり、身の回りのことを簡単なドイツ語で表現したりできるようになる。 ・国際化が進む現代社会で生きていくために、言語を通して異文化を理解し、多様なものの見かたができるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	「ドイツ語初級（文法）Ⅰ」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法を習得していきます。 ドイツ語の基礎文法について、教科書および、動画や授業資料などの補助教材を用いて解説した後、練習問題に取り組むことで理解を定着させていきます。同時に、発音練習も行いながら、自らも発話ができるように練習していきます。また、授業後の独作課題や、数課に一度の復習テストなどにより、学修者の理解度を確認しながら、学習内容の定着を図ります。						
(5)授業のキーワード	ドイツ語、初修外国語、文法、グローバル感覚						
(6)授業計画	<第1回> zu不定詞 <第2回> 接続詞 <第3回> 話法の助動詞 <第4回> 前つづり付き動詞（分離動詞と非分離動詞） <第5回> 再帰動詞 <第6回> 動詞の3基本形 <第7回> 動詞の過去人称変化 <第8回> 現在完了形 <第9回> 前半のまとめ <第10回> 形容詞・副詞の比較変化 <第11回> 受動態 <第12回> 関係代名詞 <第13回> 接続法第Ⅰ式 <第14回> 接続法第Ⅱ式 <第15回> 後半のまとめ、授業アンケート <第16回> 期末試験 原則として、1回の授業で教科書の1課を扱っていきます。各回の授業の流れは以下のとおりです。 ①<授業の前に> その回で学習する文法事項についての説明動画を、各自あらかじめ視聴し、簡単な準備をしておいてもらいます。 ②<対面授業で> 動画で視聴済みの文法事項を簡単に解説したのち、筆記練習、発音練習（時折パートナー練習）を通して、文法事項を理解・習得するとともに、それを運用できるよう練習を行っていきます。 ③<授業の後で> 授業内容を復習し理解度を確認するための、簡単な独作課題を提出してもらいます。提出期日や提出方法はその都度お知らせします。また提出後は、教師が添削したものを返却しますので、しっかり見直して復習してください。授業内容も含めて分からないことがあったら、メールやフォーラムで質問し、すぐに解決するようにしましょう。質問やそれに対する回答は、必要に応じて、次の授業で受講者全員で共有できるようにします。 ④<2～3回に1度> 復習小テストを行い、教師および学修者自らが、その理解度・習熟度をチェックしその後の学修に役立てていきます。 ※「発音練習」は授業中にも行いますが、授業外においても、ネイティブ音声などを利用して繰り返し行ってください。						
(7)成績評価の方法	期末試験（30％）、復習小テスト（30％）、授業後の提出課題（30％）、授業中および授業時間外学修における取り組み姿勢（10％）を総合して、合計100点満点に換算し評価します。						
(8)成績評価の基準	上記(5)の合計が60点以上の場合、授業の達成目標に到達したとみなします。 個々の評価内容、および到達レベルについては以下のとおりです。						

(8)成績評価の基準	＜筆記試験（期末試験・復習小テスト）＞ 教科書の例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、少し応用した問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、難しい応用問題が解ければ「卓越している」として評価します。 ＜授業後の提出課題＞ 各回点数化して評価します。 ＜授業中および授業時間外学修における取り組みの姿勢＞ 授業における発言、発音練習、パートナー練習などにおいて、真剣に取り組む積極的に参加しているかどうか、また授業中あるいは授業時間外において、理解できたところ、理解できないところを自ら明確にし、解決の努力をしているか、問題があれば質問などを積極的にしているかどうか、自主的な発音練習の成果が見られるかどうか、で評価します。 以上のような評価を総合して、100点満点に換算し、 90点以上：十二分に、授業の達成目標の水準に達した 80点以上：授業の達成目標の水準に達した 70点以上：ある程度、授業の達成目標の水準に達した 60点以上：最低限、授業の達成目標の水準に達した とみなします。
(9)事前事後学習の内容	・事前に配信される文法解説動画は必ず視聴し、指示された準備をしておいてください。 ・授業後、学習した内容を、教科書や配布資料などを用いてしっかり復習をし、指示された課題や自習用練習問題に丁寧に取り組むことで、理解を定着させてください。 ・復習や宿題を行っていて明らかになった疑問点や、十分に理解できなかった点については、自身で解決できない場合には、そのまま放置せず、授業の際に、あるいはフォーラムやメールなどを利用してすぐに質問するようにしてください。 ・また語学習得にとって「発音練習」は最も大切なことから、授業時間外にも、ネイティブ音声を繰り返し聞き、声に出しての発音練習を毎日続けて行ってください。 ※この授業は45時間の学修を必要とする内容です。従って、15時間以上の授業時間外学修が必要となります。
(10)履修上の注意	・対面授業までに、eAlpsにアップされる「授業資料」をプリントアウトして、「文法解説動画」を必ず視聴し、指示された課題をやっておいてください。また、プリントアウトした「授業資料」は、必ず対面授業に持参してください。 ・授業後にeAlpsにアップされる「独作課題」は、期日を守って必ず提出してください。 ・「発音練習」は授業内でも行いますが、授業の際に注意のあった点などを思い出しながら、授業外でも繰り返し練習してください。 ・「辞書」は、必ず授業に持参してください。 ※なお、本授業は、人文学部生、およびそれ以外の学部生を対象とした授業となります。
(11)質問、相談への対応	質問があれば、なるべくその場ですぐに、または授業の前後に行ってください。なお、ゆっくり質問・相談時間を取りたい方は、都合の良い日時について相談に応じますので遠慮なく申し出てください。また、フォーラムやメールでの質問はいつでも気軽にどうぞ！（メールアドレス：hamay@shinshu-u.ac.jp）
(12)授業への出席	・全ての回に出席することを基本とします。 ・授業を4回以上欠席した場合、この授業の達成目標に到達することができないため、成績評価の対象外（不可）となります。 ・感染症報告システムに登録し「出席停止」と判断され、授業に出席できなかった場合は、欠席とはみなしません。 ・「学修の補充の対象とする事由」（『共通教育履修案内』参照）により授業に出席できなかった場合は、欠席とします。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	・「出席停止」により授業に出席できなかった場合は、健康安全センターからのメールを担当教員に転送して、学修の補充に関する指示を受けてください。（『共通教育履修案内』参照） ・「出席停止」ではなく「学修の補充の対象とする事由」（『共通教育履修案内』参照）により出席できず、補充を希望する場合は、所定の方法（『共通教育履修案内』参照）により、共通教育窓口で申請してください。（この場合は、出席扱いにはなりません。）
【教科書】	橋本由紀子著、『Probe Deutsch プローベ 大学生のためのドイツ語文法』 ISBN:978-4-560-06435-1,白水社,2022年,2,530円（税込）
【参考書】	必要や要望があれば、適宜紹介します。